

令和5年秋期の県内植木市場における取引動向

愛知県植木センターでは昭和61年(1986)から県内の植木市場において、主に地元から出荷される緑化樹木を中心に21品目(一般植木、株・玉物、生垣用樹)の取引量を春期(2月～4月)と秋期(10月～11月)に調査しております。また、平成20年(2008)からは近年市場でよく見られる10品目を追加して調査しております。今回は令和5年秋期の取引動向の概要について紹介します。

1 全体取引量(追加樹種を含まず)〔図-1〕

今期の全体取引量は約4.3万本で、前年同期(約5.8万本)より約1.5万本減少しました。

一般植木は対前年同期比97.0%、株・玉物は49.0%、生垣用樹は97.2%で、全体では73.7%となりかなり減少しました。

全体取引量は、平成10年以降減少傾向が継続しており、今期の取引量は平成10年に比べると10%まで減少しました。

2 用途別の取引動向(追加樹種を含まず)〔図-1、図-2〕

(1) 一般植木(12品目)

一般植木(自然形・仕立物)の取引量は約1.5万本で、前年同期(約1.5万本)とほぼ同量でした。

自然形では、キンモクセイ、ヒバ類が好調で、カエデ類、ツバキは若干減少しました。

仕立物では、イヌマキが増加したものの、イヌツゲ、クロマツの仕立物の取引数量は低調のままです。

(2) 株・玉物(5品目)

株・玉物の取引量は約1.4万本で、前年同期(約2.8万本)より半減しました。

全体的にどの樹種も取引量が少なく、株・玉物の大半を占めるサツキ、ツツジ類、イヌツゲがともに大幅に減少しました。

(3) 生垣用樹(4品目)

生垣用樹の取引量は約1.4万本で、前年同期(約1.5万本)より約0.1万本減少しました。

生垣の主要樹種であるサザンカは減少傾向でイヌマキ、マサキは若干増加しました。

3 調査追加樹種(10品目)を含む調査結果〔図-3、表-1〕

平成20年(2008)から、近年市場でよく見られる樹種を、調査対象として追加(一般植木ではハナミズキ、シマトネリコなど7種、株・玉物ではドウダンツツジなど3種)しました。

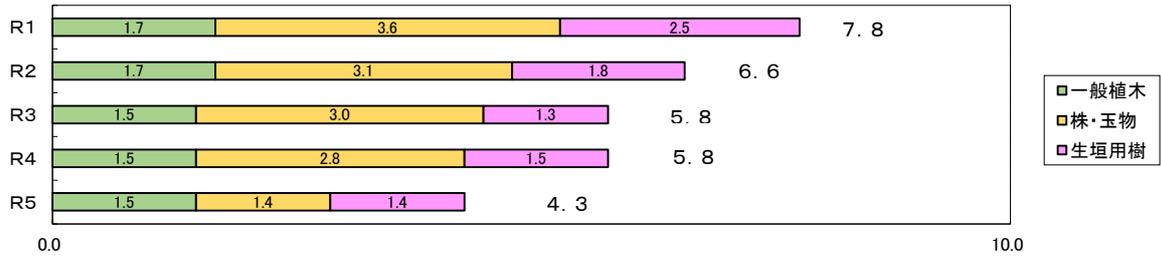
追加樹種を含めた取引量の上位10品目では、オタフクナンテン、サザンカ、サツキが依然として上位を占めており、キンモクセイ、カエデ類が続いています。近年、取引量が多かったサツキ、ツツジ類が減少傾向にあり、それに代わる突出した樹種が少なく、全体に樹種が平均化(多様化)している傾向がみられます。

調査市場

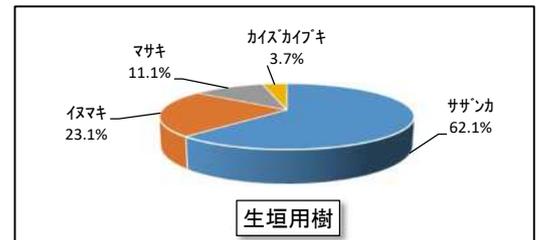
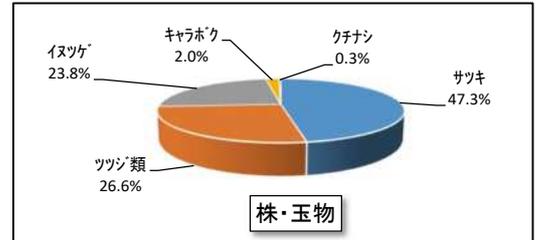
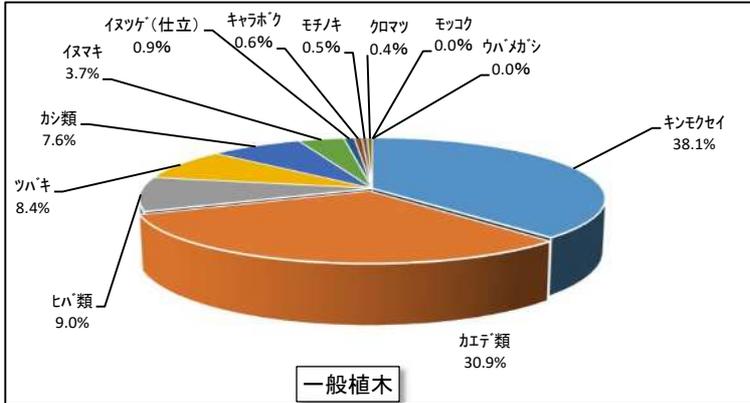
農事組合法人 井堀植木生産組合(稲沢市井堀江西町)

矢合植木市場株式会社(稲沢市矢合町)

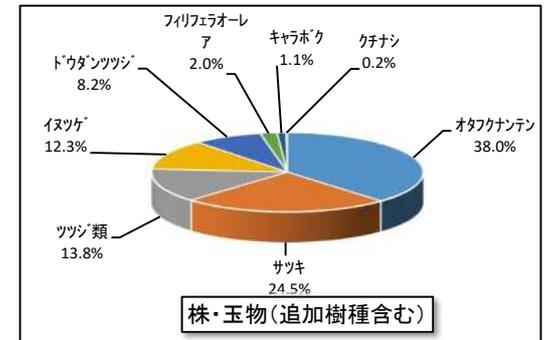
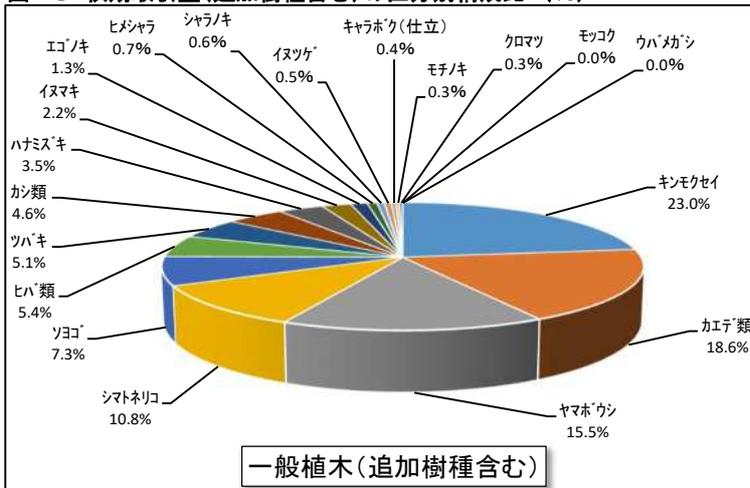
図一 秋期取引量の推移（単位:万本）



図二 秋期取引量の区分別構成比（%）



図三 秋期取引量(追加樹種含む)の区分別構成比（%）



表一 秋期取引量上位10品目(追加樹種含む)の動き

順位	令和3年			令和4年			令和5年		
	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比
1	オタフクナンテン	株	↓	サツキ	株	...	オタフクナンテン	株	...
2	サツキ	株	↘	オタフクナンテン	株	↘	サザンカ	生	...
3	ツツジ類	株	↑	サザンカ	生	...	サツキ	株	↓
4	シマトネリコ	—	↘	ツツジ類	株	...	キンモクセイ	—	...
5	サザンカ	生	...	キンモクセイ	—	...	カエデ類	—	...
6	ドウダンツツジ	株	↑	イヌツゲ	株	↑	ヤマボウシ	—	↑
7	キンモクセイ	—	...	カエデ類	—	...	ツツジ類	株	↓
8	ヤマボウシ	—	...	シマトネリコ	—	↓	イヌツゲ	株	↘
9	カエデ類	—	...	ドウダンツツジ	株	↓	イヌマキ	生	↗
10	ソヨゴ	—	↓	イヌマキ	生	...	シマトネリコ	—	↘

前期比 ... : ±20%未満 ↗ : +20%以上40%未満 ↘ : -20%以上40%未満
 ↑ : +40%以上 ↓ : -40%以上 — : データなし
 区分 — : 一般植木 株 : 株・玉物 生 : 生垣用樹